## 歪んだ窓

山川方夫

朝からの雨が窓を濡らしている。アパートの小暗い部屋の中で、

隅っこから目を光らせて見ていた。 レーン・コートを出し手ばやく外出の仕度にかかる姉を、 彼女は

「いいわね?」じゃ、ちゃんとおとなしくお留守番をしててね。

姉はいった。彼女は答えない。が、姉はそんな妹には、すっか

すぐ帰ってくるから」

り慣れっこになってしまっていた。そのまま扉に向った。

彼女は低い声でいった。

「……もしもよ、もし佐伯さんが結婚してくれっていったら、 お

3 姉さん、結婚する?」

歪んだ窓 ぶり、 くるようになって、もう三月近くになる。その間の定期的な訪問 ぱりそうなんだわ。お姉さん、あの男と結婚するつもりなんだわ。 心に、こそこそと真剣に話しあっているのだって、私、 は明白だし、ときどき家に寄る前後に駅前の喫茶店で、二人で熱 のご機嫌とりめいた、ひどくやさしげな態度……。 瞬、 「まあ、 かくしたってダメよ、と彼女は心の中で呟く。あの男が訪ねて 姉はおどろいた顔で妹の目を見た。が、彼女はその姉の顔に、 お姉さんへのいい気な頼られている男の目つき、 うろたえた色がはしったのを見のがさなかった。 なにを考えているの? あんたったら……」 あの男の下心

妹の私へ

……やっ

姉さんのあとをつけてちゃんと知ってるのよ。……それに、

何度かお

私が

な苦しげな表情。 彼のことを口にするたびに見せるお姉さんの、あのすまなさそう とじゃないの。 いままで、こんなことは一度だってなかったこ

買ってくるわ。なにかあなたの好きなものさがしてくる。 「じゃ、行ってくるわね。 あ、そう、私、駅前で夕御飯のおかず ね ?

「お姉さん……」

あの苦しげな、すまなさそうな顔にかわっている。……そうなの いいかけて、彼女は口をつぐんだ。笑いかけた姉の顔が、また、

からの呼び出しに違いない。でも姉はそれをいわない。自分とち 姉はとても気持ちがやさしいのだ。いまの電話だって、佐伯

誰からも相手にされない私のことを思って、きっと気がと

5

で、 がめているのだ。そして姉は、同じその気のやさしさから、いつ ものとおりあまり長いこと私を一人きりにしておくのが可哀そう しかも佐伯とも別れたくなく、一時間もしたらきっと彼をつ

うなにもいえない。 り私はなにもいうまい。このお姉さんの顔を見たら、 れて、この部屋に帰ってくるのにきまっている。…… まるで、ゆるして、って頼んでいるみたいな顔。ダメだ。やは 私には、

「……お願いね、 お留守番、頼んだわよ」

まる。 いレーン・コートの裾がひるがえって、扉が大きな音をたてて閉 いうと、姉は思い切ったようにそそくさと部屋を出て行く。白

の骨ばった肩が慄え、彼女は声をたてて泣きつづけた。 彼女は、小さく泣きはじめた。小暗い部屋の隅でうつぶしたそ

雨はあけるのだというのに、今年の梅雨は、いったい、いつまで の窓を流れ、遠くに、かすかに雷の音も聞こえる。 雨はあいかわらず降りつづけている。 雨滴が絶え間なくガラス 雷が鳴れば梅

やがて、 彼女は立ち上り窓に顔をうつした。涙でくしゃくしゃ

つづくのだろう。

スギスした発育不全の中学生みたいな固く平たい胸。 に汚れた、 似ても似つかぬ不器量な、醜い顔。二十三にもなるのに、ギ 青黒く生気のない陰気な顔。 色白で大柄な美しい姉

8

歪んだ窓 どうなっちゃってもいい。

お前なんて、私は大きらい。

お前なんか、死んでしまえばいい。

自分で自分にいい、彼女は目をつぶった。また新しい涙がこぼ

れた。 お姉さんみたいに朗らかで人なつっこく、誰からも可愛いがられ、 まのように家でブラブラしていることもなかったのに。 もし私が、お姉さんのような美人だったら。そしたら私だって、 美人で

男を近づけさせることもなかったのに。お姉さんの、そんな負担 今日まで独身のままいさせ、慌てさせて、佐伯なんてあんな悪い 気がやさしく、しかも評判のしっかり者のお姉さんを、二十六の

になることもなかったのに。—

一私は、

それが口惜しい。

ら道を眺めてたら、あの男が通ったの。すごく憎らしい、あの男 間なんて、信用できるはずがないわ。それに昨日、私がこの窓か 観察するみたいに。……きっと、二重人格だわ。ね? こんな人 った。 にそっくりな小さな男の子の手を引いて、奥さんらしい人といっ 人のような冷酷なこわい目で、じっと私をみつめてるの。まるで ニコ笑っているんだけど、ちょっとボンヤリしてると、まるで別 いてるんじゃないわ。ダメなの、あの男は」 「……でもダメ。いけないわお姉さん」と、彼女は声に出してい あの男ったら、はっと気づいて目を合わすときはやさしくニコ 「あの男はとんだ食わせものよ。なにも私、ヤキモチをや

しょに。――知ってる? お姉さん、あの男には奥さんも子供も

て …

歪んだ窓 10 一見、 いるのよ。 柔和な、 ほんの浮気心で、 いかにも信用できそうなやさしい紳士面をつくっ お姉さんをダマしているだけなの。

ない。 っている。 に気をゆるしたのか、それが不思議だったわ。でも、いまはわ んになんか接近して。……本当よ、信じて。ヤキモチなんかじゃ 私、 はじめ私は、しっかり者のお姉さんが、どうしてあんな男 あの男を許せないわ。ちゃんと妻子があるくせに、 私は、私というコブが、いつもお姉さんの縁談の邪魔 お姉さ か

弱

みに、

になっていたことを思い出したの。あの男は、そんなお姉さんの

焦りにつけこんで、うまくお姉さんに取り入ってしまっ

私にはよくわかってるの。みんな、みんな私が、

お荷

たんだわ。

私、 本当にすまないと思っている。だから私、私の大切な、大

物でしかない私が悪いんだわ。

本当。これはほんとなのよ。……そうだわ、私、今日こそその証

好きなお姉さんのためだったら、私なんかどうなったってもいい。

彼女は指で涙を拭き、すばやく台所へ走った。鋭いフレンチ・

拠をみせてあげる。

ナイフを手にとり、脇の下にかくして、また窓に寄った。

がら、 頬が熱く火照ってくる。彼女は横目で窓から道を眺め下ろしな 心の中でいった。怒らないで。泣かないでねお姉さん。私

が、 お姉さんにしてあげられることは、これぐらいしかないの。

11 見ててね、お姉さん。そして、信じて。私が、お姉さんの幸福を、

歪んだ窓 それだけを、心から祈っているのを。…… で風景も歪み、 あ いかわらず、 降りつづく雨が窓ガラスを洗っていて、そのせ 陽 炎 を透かして見るように揺れながら流れつかげろう

それから、彼をこの部屋につれてくるのにきまっている。 汗ばんだ右手のナイフを、彼女はしっかりと握りしめた。

づけている。お姉さんは、きっと今日もまた佐伯と喫茶店で逢い、

佐伯がこの部屋に足をふみ入れたとたん、ものもいわずその体に おどりかかる自分、絶叫する彼の胸に咲く真紅の血の花の鮮やか

びに胸を充たし、呼吸をころしながら、歪んだその風景の中に、 さがうかんでくる。彼女は、はじめて自分が姉の役に立つよろこ

二人があらわれるのを待ちつづけた。

すよ。僕が、あなたに頼まれて、ちょいちょい病状を見に寄って 「……でもねえ、どうやら妹さんはもう気がついているみたいで

いる神経科の医師だっていうことをね」

ごろはだいぶ症状が悪いようで、昨夜なんか一晩じゅう泣いてお 「いいえ、それはまだ気づいてはいないと思いますわ。でも、 近

りましたの」 「なるほど。梅雨どきにはああいう病気は急激に悪化しますから

13 ね。……なにしろ、近ごろは僕を見る目つきも、普通じゃない。

あきらかに警戒しちゃっている」

歪んだ窓

「あの、やっぱり妹は病院へ入れるべきなんでしょうか。

.....私

姉妹二人きりですし、なにか可哀そうで……」

たち、

それをはっきりと決めることにしましょう」

さるときだと思いますよ。……ま、今日、これから寄ってみて、

「お気持ちはよくわかります。でも、そろそろあなたも決心をな

1	4

青空文庫情報

底本:「山川方夫全集 第四巻」冬樹社

1969(昭和44)年9月25日第1刷発行

初出:「龍生」

1963(昭和38)

年7月号

入力:かな とよみ

校正:The Creative CAT

2020年1月24日作成

青空文庫作成ファイル:

15 このファイルは、インターネットの図書館、 青空文庫(https://w

10
ww.aozora.gr.jp/)
で作られました。
入力、
校正、
<ul><li>、制作にあたった</li></ul>

のは、ボランティアの皆さんです。

16

歪んだ窓	

## 歪んだ窓

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL http://www.aozora.gr.jp/

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL http://aozora.xisang.top/

BiliBili https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks 青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/ ※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。 http://tokimi.sylphid.jp/